



帯屋 洋之 教授が国際学会 IConCEES2023 で招待講演

【概要】

都市工学部門の帯屋 洋之 教授が、2023 年 10 月 9 日（月）に、マレーシア・トゥンフセインオン大学（UTHM）主催の国際学会 7th International Conference on Civil and Environmental Engineering for Sustainability (IConCEES2023)にて招待講演を行いました。

【本文】

都市工学部門の帯屋 洋之 教授が、2023 年 10 月 9 日（月）に、マレーシア・トゥンフセインオン大学（Universiti Tun Hussein Onn Malaysia : UTHM）主催の国際学会 7th International Conference on Civil and Environmental Engineering for Sustainability (IConCEES2023)にて招待講演を行いました。会場は首都クアラルンプールの中心街にある Impiana KLCC Hotel で、オンラインを含めて約 200 名の出席者がありました。帯屋教授の講演では「Strict Tangent Geometrical Stiffness for Ultra Large Displacement Analysis（超大変位解析のための厳密な接線幾何剛性）」と題して、佐賀大学独自の幾何学的非線形解析理論である接線剛性法と、一般の有限要素法との違いについて、計算例を交えながらの解説がなされました。

当国際学会を主催する UTHM と理工学部は、2015 年より学部間学術交流協定（MoU）が締結されています。今回の講演後に行われた、UTHM の Prof. Dr. Ruzairi Abdul Rahim 副学長（※マレーシアでは学長は国王が務めるため、副学長が実質のトップです）と帯屋教授との間の懇談では、国際パートナーシッププログラムや Visiting Professor の相互訪問の復活などが話題に上り、ポストコロナにおいては、以前にも増して交流を活発化させていくことが確認されました。



講演の様子



UTHM 副学長からの記念盾の授与